

たかしまかえもん

高島嘉右衛門

高島嘉右衛門は幕末～明治時代に活躍した実業家であり、東京～横浜間の鉄道開業にあたっては、神奈川～桜木町付近の海面埋め立ての難工事を手掛けた。そのほかにも、ガス灯の設置や洋式学校の設立など、横浜の発展に尽くした人物であり、高島町、高島台の地名も彼に由来する。実業だけでなく、占いの名人でもあり、高島易断を創立した実に多才な人物である。

高島山トンネル



反町駅側の出口

4 高島山トンネル

高島台を貫く歩行者専用のトンネル。かつては東急東横線のトンネルであった。平成16年(2004)、東横線は地下化され、高島山トンネルのさらに下を走るようになった。廃線跡はトンネルも含めて遊歩道「東横フラワー緑道」となった。住民にとっては地下深い反町駅を利用するより横浜駅まで歩いたほうが便利な場合もあり、生活道としても利用されているという。



星野町公園に残る神奈川台場の石垣

12 神奈川台場

幕末の万延元年(1860)、神奈川宿の沿岸に海を埋め立てて台場が築かれた。お台場は東京だけではなくなかったのである。現在のJR貨物東高島駅がある一帯である。幸い実戦に使われることはなく、もっぱら祝砲を上げるために使われ、明治32年(1899)廃止。台場を取り巻く海面はすべて埋め立てられたが、台場両端部の石垣がわずかに台場の痕跡を伝えている。

強固な地盤



横浜市役所付近から見るみなとみらい



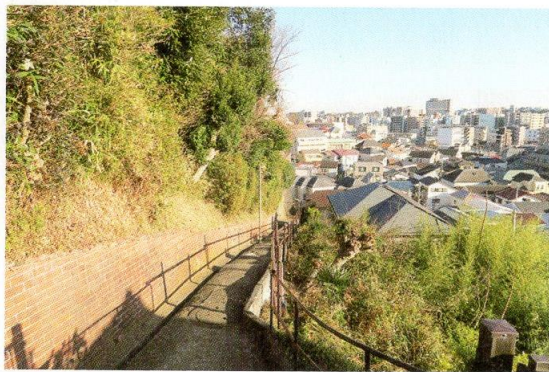
ドックヤードガーデン。旧横浜船渠第2号ドック。横浜を支えた人工の窪地である。現在はランドマークタワーと一体化した広場となっている

14 みなとみらい

昭和末期から平成にかけての再開発・埋め立てによって造られた新しい街。桜木町に接する一帯は、かつての三菱重工横浜造船所の跡地である。ランドマークタワーをはじめとする高層ビルが集中しているのは、単に用地確保の問題だけでなく、この一帯が野毛山の延長にある埋没波食台であり、比較的浅い位置に強固な地盤が存在するためでもある。

庚(かのえ)

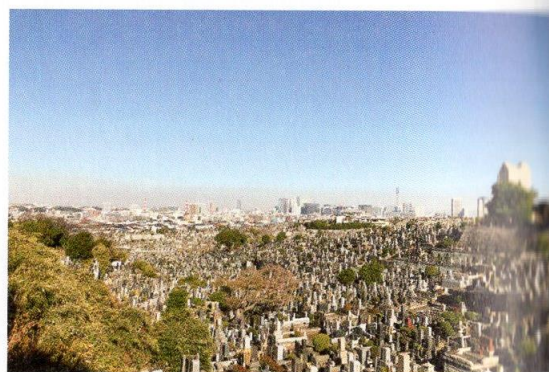
スリバチすべてが墓地



坂の上から町を一望する

16 庚台の坂道(無名)

谷を見ながら、庚台の丘へと上がる、歩行者専用の坂道。家並みを抜け、一気に展望が開けるその過程は、登山において森林限界を越えたときの爽快感にも通ずる。煉瓦造りの擁壁が味わい深い。



谷全体を見渡す。正面が横浜駅方向

15 久保山墓地の谷

明治7年(1874)、大聖院、林光寺、常清寺の3寺の墓地が移設され、成立した。横浜市営部分の面積は12万6000㎡、1万4000区画に及ぶ広大な墓地である。スリバチの底から丘の上まですべてが墓地となり、開発前の地形をとどめている場所である。

瑞祥地名

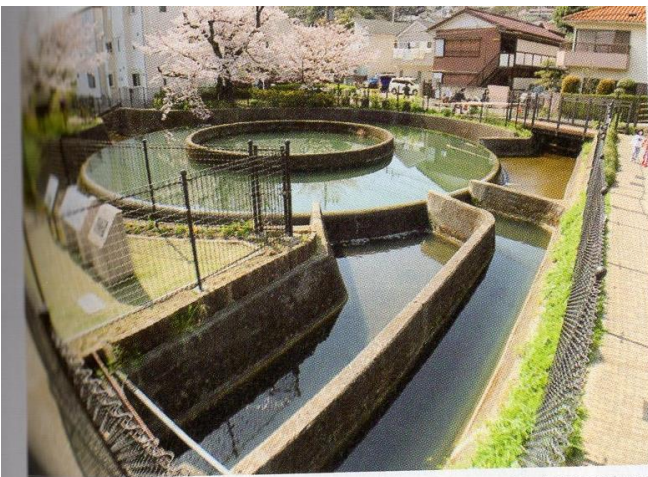
~~~~~

### 瑞祥地名 ずいしょうちめい

瑞祥地名は、地名を命名法・由来などをもとに分類した地名種類の一種である。めでたい意味の言葉をそのまま使ったり、良い意味の言葉から創作された地名のことである。

~~~~~

円筒分水



8 久地円筒分水

平瀬川と二ヶ領用水が交差する地点にある、二ヶ領用水の水を各方面へ分配するための施設。これまで使用していた分量樋に替わり、平瀬川トンネルと同時に建設された。平瀬川の下をサイフォンで交差した水は円筒の中心からあふれ出て、決められた割合に従って外周に設けられた仕切りによって分配される。

外側の円筒を取り巻いているのが各方面への用水路である

円筒分水は、溝の口の街のシンボルに用いられている。JR 武蔵溝ノ口駅の天窓や、駅前ペDESTリアンデッキの上屋に円筒分水をモチーフにしたデザインがみられる。



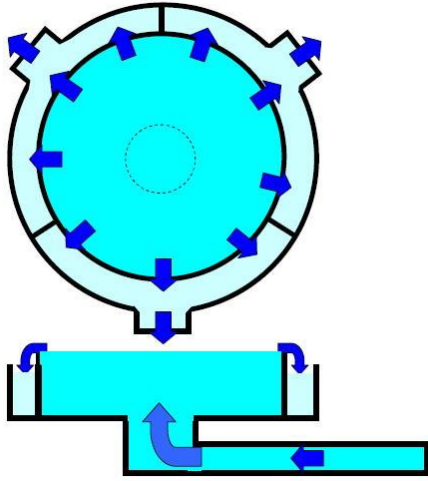
JR 武蔵溝ノ口駅



駅前ペDESTリアンデッキ「円筒分水広場」

~~~~~

円筒分水は、農業用水などを一定の割合で正確に分配するために用いられる利水施設。円筒状の設備の中心部に用水を湧き出させ、円筒外周部から越流、落下する際に一定の割合に分割される仕組みとなっている。



<https://entoubunsui.com/chishiki.html>

~~~~~